

梶山女学園大家政 ○冨田 明美
田中 宏
安田 盈子

1. 先回の報告から洗たくによるパッカーが布の収縮より縫道の収縮が大きいときにあらわれ、さらに洗たくを重ねると布の収縮が進み縫道の収縮が停止するという結果が得られたので、この点を深く追求するために上糸、下糸調子が釣り合う条件で縫製したものの洗たくによる縫道の外観変化と縫道長の測定したものを比較検討した。

2. 織物には収縮の異なる平織物3種、縫糸には綿、絹、テトロン糸の3種を使用し、家庭用電動ミシンを用いて下糸調子を強、中、弱の3段階として、糸長比1となる上糸調子を定めて各組み合わせ試験布を作成した。洗たくには家庭用電気洗たく機自動反転式を用い、水温、時間、浴比、しぼり方など一定条件とし洗たく回数は5回とした。洗たく後の試験布は一対比較法により評価しその得点指数を算出した。別に洗たく前と各洗たく毎に縫道長を測定しパッカー率を算出した。

3. 縫道の収縮は糸調子、糸の種類によって変わる。収縮の少ない織物では糸調子が強で糸の収縮が大のもの程パッカーが目立ち、糸の種類、糸調子が大きく影響している。また収縮大の織物では縫道の収縮は布の収縮に平行して目立たず、糸の種類、糸調子による差が少ない。